

まちを彩る 芦屋ヒストリー

芦屋には、旧石器時代から約2万年間、人々が紡いできた歴史があります。まちを彩る芦屋の物語を、ほんの少し紐解いてみましょう。



『伊勢物語』から紐解く芦屋

芦屋のまちが纏う文化の香り

芦屋のまちが纏う特有の雰囲気について考えてみたことはありませんか？どこからきているのか？その答えの一つは、山・川・海の豊かな自然環境に恵まれた立地であることに加え、これまでに培ってきた歴史や文化の香りをまちのいたるところで感じられることです。洋画家の小出檜重や文豪谷崎潤一郎をはじめ、多くの芸術家・文化人が居を構え、優れた文化が育まれた背景には、芦屋のまちが持つ歴史や文化が多くの人々の心を魅了し、そこに住む人々へ文化的なインスピレーションを与えた結果だと言えるでしょう。

芦屋の文化と『伊勢物語』

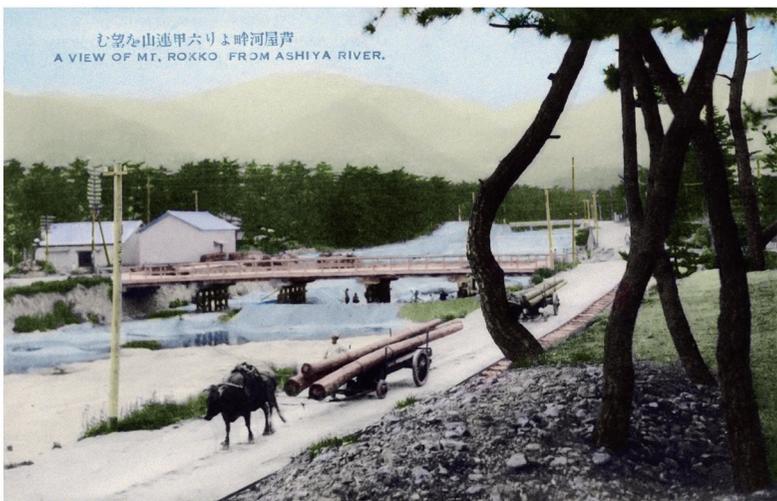
芦屋の文化が醸成されるきっかけとなった要因の一つを見てみると、そこには平安時

代の超ロングセラーとして今も語りつがれる『伊勢物語』が大きく関係していることに気づきます。平安時代、今から1000年以上前につくられた作者不詳の『伊勢物語』。恋愛ストーリーを軸としたフィクションであり、作中に確かな名前はでてきませんが、在原業平が主人公と考えられています。

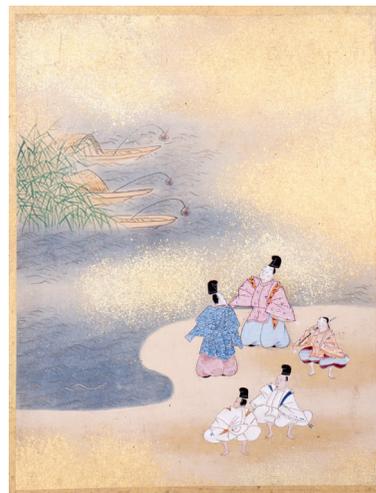
多くの謎に包まれた『伊勢物語』ですが、物語を構成する125話のひとつ、第87段には在原業平の芦屋の別荘でのエピソードが描かれています。このストーリーにより、平安朝以降、芦屋の地は在原業平ゆかりの歌名所として有名になりました。そして、芦屋には業平に関係する伝説と地名が生まれ、豊かな文化が醸成することとなったのです。

過去の芦屋を
紹介します





1917年（大正6年）に架けられた木造の業平橋
1924～1925年（大正13～14年）撮影の写真をカラー化

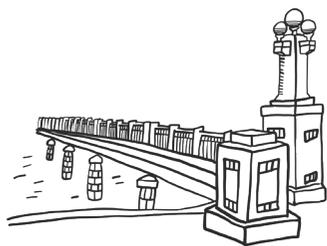


『伊勢物語』第87段 芦屋の灘の漁火
『伊勢物語画帖』画：狩野探雪（芦屋市立美術博物館蔵）



在原業平（825 - 880年）
『若鶴百人一首』（芦屋市立美術博物館蔵）

現在でも、ヒット作となる映画やアニメ、ドラマ等に関連する場所などを「聖地巡礼」と称して、多くのファンが訪れ、それによりまちが活性化することが各地で起きています。人々の心を惹きつける要素として、物語と現実世界との接点に興味を湧くように、芦屋においては『伊勢物語』という現存する最古の歌物語をもとに1000年を超える壮大な時間をかけて、まちのいたるところで業平のみやびを感じられる魅力が生まれ、平安時代から現在に至るまでイメージされてきた芦屋と業平の関係は、長い時間をかけて芦屋の文化を豊かにしてきました。また、培ってきた歴史は、芦屋の人々の心の奥底に通じる何かを生み出す影響力の源としていまだ、色褪せることなく存在し続けています。そして、芦屋と業平のストーリーをはじめ、地域の歴史や伝説、そして文化や景観を未来に継承していくことによって、過去、現在、そして未来を生きる人々は、時空を超えてつながることができるのです。



在原業平ゆかりの地、芦屋

在原業平は平城天皇の孫であり、家柄は大変良く、容姿も美男子であったと言い伝えられています。『伊勢物語』では数多くの女性と関係したモテぶりが描かれ、ときには、結ばれることが許されない立場の女性と禁断の恋におちてしまうなど、大胆な行動をとる一面を持ち合わせています。一方で歌の才能は、六歌仙・三十六歌仙として平安時代を代表する歌人として大変優れているのですから、さながら平安時代のアイドルと言える人物です。

今に残る業平にゆかりある伝説

芦屋市には、「業平町」という在原業平の名がつけられたまちがあります。業平町の名称は、大正時代に架けられた「業平橋」に由来し、1944年（昭和19年）の町名改正で誕生しました。また、芦屋市には業平の父親である阿保親王のお墓だと言いつたえられている阿保親王塚古墳があります。しかし、この古墳は、阿保親王のお墓ではありません。阿保親王塚古墳の出土品から、阿保親王の没年より約500年も古い4世紀代（古墳時代前期）に造られた古墳であることが明らかとなっています。

この他にも、市内には阿保親王の住地に建立されたと伝えられる親王寺が打出町にあるなど、業平の父、阿保親王にゆかりある伝説も残っています。

平安のアイドル在原業平